

提言第5号 腹腔鏡下胆嚢摘出術に係る死亡事例の分析

事例2

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代の患者。糖尿病合併。
- ・ 死因は門脈損傷を起因とした出血性ショック。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・ 約 2 か月前、胆石胆嚢炎を疑い禁食、投薬治療実施。食事再開後、胆嚢炎の再燃あり入院。1 か月後、腹腔鏡下胆嚢摘出術施行。
- ・ 肝外門脈狭窄と門脈側副血行路を認めた。胆嚢頸部の剥離困難で肝実質より出血あり。手術開始約 50 分後に開腹移行、約 2 時間後に輸血開始するが、出血多量のため回収式自己血輸血を実施。止血できずガーゼ圧迫し閉創。術中出血量約8,000 mL、手術時間約 4 時間。
- ・ 帰室後全身状態悪化、約 12 時間後に死亡。